

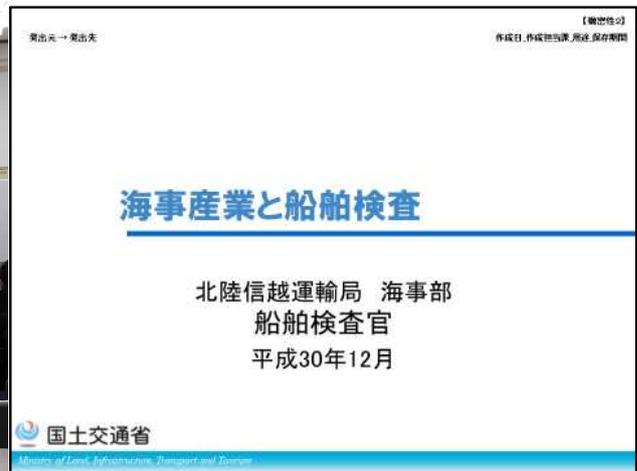


機械科生徒が「海事産業と船舶検査」について勉強しました。

平成 30 年 12 月 25 (火) に国土交通省北陸信越運輸局海事部より首席海事技術専門官 西田様を講師として派遣いただき、「海事産業と船舶検査」について、講義をしていただきました。



講義風景



夏：「船舶の総トン数」冬：「海事産業と船舶検査」

海事産業（海運・造船・船用工業等）、日本の外航海運、船と陸をつなぐ港湾運送内航海運（コンテナ、石油精製品）、我が国の造船業、船用機器、船舶の運航（船舶職員）船舶の省エネ、船舶検査（安全・環境保護）に関する制度、船舶検査の必要性、安全・環境基準の概要、海難事故、船舶安全法に基づく検査制度、海洋汚染防止法に基づく検査制度、その他（保安、PSC）、船舶構造（設計・工作）、船の復原性、救命設備海洋汚染防止法などについて2時間にわたっての講義でした。



【スキルアップシートより】

- ・ 名前だけは知っていた「タイタニック」の実態について詳しく知ることができた。
- ・ 船にも車検があることに驚いた。
- ・ 船に使われている部品（船用機器）が10万点を超えることや、省エネ技術について発見があった。
- ・ 日本海で起きたナホトカ沈没事故について知った。船舶検査の必要性を知った。
- ・ 新潟に船用機器を作っている会社がある。
- ・ タイタニック事故について無線や救命装置などのルールがなかったため多くの死者を出してしまったことを知った。死亡事故や海洋汚染など基準や検査が必要なことが分かった。
- ・ 過去の事故データを活かし、主要部の防火加工や脱出用のコンテナ防火加工など様々な工夫があることがわかった。
- ・ 船は大きい、一つ一つの部品やルールはだいぶ細かいものだった。
- ・ 船舶の給油は大きいものだと半日近くかかる。
- ・ 船舶用の大型船用ディーゼルエンジンの総排気量、最高出力、動力の桁違いの数値に驚いた。いかに船舶のエンジンがすごいか気づかされた。

【職員の感想】

海事産業の分野は、身近に港があるにもかかわらず未知の部分が多い。SPHの取組の中で普段聞けない講義を聞いて、この分野への職業選択と進学して船舶工学をもっとやってみたいと考える生徒もスキルアップシートから感じられた。